

授業科目	腫瘍専門外科医コース： 化学療法演習		
区分・単位	演習 1 単位	講義番号	
年次・期別	1, 2, 3 年次	曜日・時限	
教室		電話番号	
担当教員	教授：水口和生、曾根三郎、丹黒 章 准教授：寺嶋吉保		
一般目標	3 臓器の腫瘍について、抗がん剤治療の適応、目標、有用性を理解し、化学療法が適切に実施できる。		
到達目標	1. 自分が専門とする臓器の腫瘍について、20 例の化学療法が実施できる。 2. 自分が専門とする臓器以外の 2 臓器の腫瘍について、各々5 例の化学療法が実施できる。 3. 抗がん剤の適切な組み合わせ、用量を理解し、個々の患者に適切な化学療法が実施できる。 4. 抗がん剤の副作用について理解し、適切な対処が出来る。 5. 化学療法中の支持療法について理解し、実施できる。		
概要	1. 自分が専門とする臓器の腫瘍について、治療計画に沿って 20 例の化学療法を実施する。 2. 自身が専門とする臓器の腫瘍に加えて、消化器、肝・胆・膵、呼吸器、乳腺、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、原発不明の腫瘍のうちからのうち少なくとも 2 臓器の腫瘍について各々5 例の化学療法を実施する。 3. <u>ブラッドアクセス（CV ポート）</u> を指導医とともに作成し、管理する。 4. 各治療のレジメンや用量は、科学的根拠に基づいたものを使用し、実施する。 5. 副作用の管理学を学習するとともに、精神的コントロールなどの緩和ケアについて学習する。 6. 少なくとも 3 例は臨床試験として化学療法を実施し、ケースファイルを作成する。		
テキスト・			

参考書等	
成績評価基準 成績評価方法	最低 30 例につき症例レポートを提出し、評価する。
研究活動との 関連	第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ相試験のプロトコール作成